

あいさつ運動の好事例

赤磐市立 山陽北小学校

(児童数539名 教職員数48名)

北小のあいさつは、日本一！
～子どもの主体的な活動を目指して～

アピールポイント

- 相手より先に自分が声を出す、「進んで」「届く声で」あいさつをする子どもを育てることを重視する。
- 生徒指導部の教員が全校に向けた取組を立案・実行し、評価をする形をとっている。(返事・語先後礼) 同時に、子どもの主体性を育てるために高学年の子どもたち(委員会活動)がプロジェクトを立ち上げ、子どもたちの側からあいさつの輪を広めていくような形もとっている。

実際の様子



取組の概要

■ 児童の実態

明るく元気で素直な子どもたちが多い。登校班で集団登校をしており、高学年の班長が率先して地域のボランティアの方々や教職員に「おはようございます」とあいさつができ、それにならって、低・中学年の子どもたちもあいさつをすることが習慣化している。

■ 活動内容

運営委員会の「あいさつプロジェクトチーム」が考えたプロジェクトの一つで、まず児童集会で、「あいさつをがんばろう」と呼びかける。そして、毎朝“あいさつ隊”が児童玄関前に立ったり、各教室を回ったりして大きな声であいさつを行う。

■ 取組の参加メンバー

運営委員会の児童を中心とした高学年の児童

運営委員会の担当教職員(生徒指導部会で出た教職員の意見を、運営委員会に投げかける)

■ 成果・効果

高学年の子どもたちが率先して手本を見せることで、自分から大きな声であいさつをしようという機運が、全校でさらに高まってきた。高学年の子どもたちにも、「大きな声で進んでがんばろう！」という自覚が表れ、地域の方から「北小の子は、よくあいさつができますね。」という声が学校に届いたり、市の水泳や陸上運動の記録会では5・6年生が率先してあいさつをする姿が他校の模範となったり、修学旅行では6年生が見学先ですれ違う人々に大きな声であいさつをし続け、たくさんの人たちにほめられたりするなど、さらなる自信につながっており、本校では「あいさつ日本一！」を自負している。